

柳田孝義先生のご退職にあたって

島崎 篤子

音楽研究室の柳田孝義先生が2018年3月31日をもって定年退職なさいました。音楽研究室を代表して、柳田先生の素晴らしさと感謝の気持ちを述べさせていただきます。

柳田先生は、1976年に28歳で文教大学の前身である立正女子大学に教育学部専任講師として着任されてから、42年間の長きにわたって文教大学で教鞭を執られました。

私が本学の教員に応募した時、かつて本学で非常勤講師をしていた親友が、「文教大学には柳田先生という、とても紳士的な先生がいらっしゃいますよ」と言っていました。この11年間先生を見てきて、まさにこの言葉のとおりでした。

柳田先生の故郷は札幌で私は隣町の小樽の出身です。先生は私より3歳年上ですが、当時の高校時代を振り返りますと、今とは違って道産子が内地と呼んでいた本州の東京に出てくること自体、とても大変なことでした。私の周りには音楽の道を志す多くの仲間がいましたが、ピアノや声楽を志す人はいても、作曲の道に進もうとしている人は皆無でした。あの時代に男性で作曲家を志すということは、想像も付かないほどの強い意志と覚悟が必要だったと思います。しかも武蔵野音楽大学在学中の21歳で、日本における最も権威と伝統がある日本音楽コンクール作曲部門で第一位および作曲賞を受賞したことは大変な快挙です。本コンクールで作曲部門だけ年齢制限がないのは、それだけ受賞が難しい分野だといえます。また文化庁主催のオーケストラプロジェクト1997年と1999年に両年とも芸術祭優秀賞を受賞、さらに国内だけでなく、2006年にはニューヨークで行われたF.ティケリ国際作曲コンテストでは第3位を受賞しています。近年では、2009年に招聘されて、北欧のスウェーデンとノルウェーで現地の学生や大学院生などを対象に、英語で現代音楽の講義と自作の作品についてのレクチャーを行っていらっしゃいます。

これまで発表された多くの柳田作品には、レコードやCDになっているものも少なくありません。日本現代音楽協会正会員で同協会におけるオーケストラ作品のコンサートでは、常に取りをとるような柳田先生は、日本の現代の作曲界の一翼を担う重要な存在です。不肖の同僚である私も、2011年11月にライアー（竖琴）のトリオ演奏で、柳田作品「エオリアの妖精」（全10曲）を近江楽堂で演奏させていただきましたが、全ての演奏曲の中で最も聴衆から高評価を得ることができました。柳田先生の作品には、独特の優しさと透明な美しさそして品性を感じます。

教育者としての柳田先生は、長年、音楽理論、作曲、指揮法そして西洋音楽史等を担当して下さいました。厳しくも確実に学生の実力を高めて下さる先生でした。国立大学の教育学部しか勤務経験が無かった私は、本学の卒業演奏会などで披露される学生の作曲作品レベルの高さに驚かされました。他大学の状況を知らない音楽専修の学生は当たり前と思っていたのですが、柳田先生に指導していただいた本学の学生は大変幸せだったと思います。

兼ねてから日本の大学における対位法や和声学が、実際の音や音楽の響きと隔絶した指導が行われてきたことに疑問を呈していらした柳田先生は、これを改革するために2012年に『名曲で学ぶ対位法』、2014年に『名曲で学ぶ和声学』を上梓されました。さらに現在は、本シリーズの第3弾と言える楽式論の執筆中です。この3つの著書は、音楽を学ぶ学生だけでなく、子どもに音楽を指導する教育現場の先生方にとっても極めて有益な3部作になると思います。

校務の面では、学長補佐、評議員、学園理事、教育学部長など学内の主要ポストを担当して、長年、本学の発展のためにご尽力下さったことは説明するまでもありません。加えて柳田先生が創設なさったアメリカ研修（2018年で29回目となる）と強豪校として有名になった吹奏楽部は教育学部の魅力になっています。

最後に、私は個人的にも大変お世話になりました。2009年頃から持病の変形性股関節症が悪化して、毎朝、北越谷からタクシーを使わざるを得ませんでした。帰りもタクシーをお願いすることが多かったのですが、柳田先生はご自宅の近くの駅だからと言って、何度もご親切に武蔵野線の東川口駅まで送って下さいました。足の痛む者にとっては、どれだけありがたかったことか！弱者に対する優しい眼差しは先生の人間性を表すものです。両足の手術を受けて現在は病気を克服しましたが、柳田先生には心から感謝しております。

作曲家に定年はありません。柳田先生には、これからは作曲家としての創作活動に専念していただき、1曲でも多くの作品を世の中に送り出していきたいと思います。柳田作品は日本の音楽界の宝になるに違いありません。柳田先生、長年、本当にありがとうございました。

(しまぎき あつこ 文教大学教育学部学校教育課程音楽専修)